

富原婦人林研クラブも商品開発や薬草利用のPRといったこれまでの活動について発表



2時間で約30種もの薬草が見つかりました 22種の薬草料理に参加者は舌鼓

ードをPR!

つけられた皿を何枚食べられるか競 中学生15分の制限時間内に、ラム肉 両県の小中学生24人が、小学生10分、 ちびっこ大食い大会」が開かれまし 高原センターで、 ました。抽選で選ばれた岡山・鳥取 てもらおうと、今回初めて企画され ギスカンをより多くの人たちに食べ ,グラムとキャベツ30グラムが盛り 10 蒜山地域のソウルフード、ジン 月 1 旦 、ギスカンちびっこ大食い大会 蒜山上福田のヒルゼン 「世界ジンギスカン



どんどん高さを増していく皿。ジンギスカンのお味は?

まちの話題 関わる50団体のメンバーなど約500人が参 開発などを行っている3団体がそれぞれ活動 ラブや全国各地で薬草についての研究や商品 上元園長による講演のほか、富原婦人林研ク 加しました。7日は高知県立牧野植物園の水 1月7日と8日に勝山地域で開かれ、 第6回全国薬草シンポジウムinまにわ」

薬草に が



今日も観光客の笑顔を運ぶ人力車

成30年12月には開業から200カ月 並保存地区の名物となりました。 いるそうです。 フも今年で71歳で、 松本さんや共に人力車を引くスタッ を迎える「人力車まつもと」ですが、 00人を達成しました。 今や、「のれ 9月30日に有料走行での乗車客30 さんが始めた「人力車まつもと」が、 伝いになれば」と15年前に松本髙明 ん」や「お雛まつり」と並ぶ勝山町 少しでも地元の地域おこしの手 後継者を探して 平

7車まつもと3000人達成 の 観光に尽力15. 年



まちの話題

琴国関の化粧まわしが真庭市へ

真庭市出身の大相撲元十両 の琴国関の作田幸寛さんか ら真庭市に化粧まわしが寄 贈されました。化粧まわしは 平成21年に市民ら約1,600人 の寄付で作られたもので、 現在は、勝山文化センター に展示されています。



9/24 まちかどが美術館に

地域の人たちが自宅や集会 所などに作品を展示する落 合まちかど展覧会が開かれ ました。今年で14回目で、会 場数は過去最多の53会場。 来場者は、工芸品や手芸品、 絵画などの力作や心温まる もてなしを楽しんでいました。



湯郷ベルとサッカーで交流

湯原こども園と美甘こども 園の子どもたちが、岡山湯 郷ベルの選手たちとサッカ ーを通して交流しました。 選手を交えたゲームでは、 子どもたちがゴールを決め ようと元気いっぱいボール を追いかけていました。



総合学習で紙漉きを体験

樫邑小学校4年生の3人が総 合学習で紙漉きを体験しまし た。今回漉いた紙は今後制 作する行燈作りに使用し、行 燈は地域で作っている菜種 油を燃料に火を灯します。児 童たちは薄く漉くことに苦労し ながら真剣に取り組みました。



10/7

レベルアップを図る陸上教室開催

市内の小学生約60人が、自 動車メーカー「マツダ」の 陸上競技部の選手から、陸 上競技の基本的な動きや走 り方を教わりました。実業 団を講師に迎えての陸上教 室は真庭市体育協会陸上部 が今年初めて企画しました。





み体

:験クラフト

市

が開

か

れ

まし

区 など

で、 日と

家 日

の手仕事に

月 7

8

Ш

町

並

触

れることが

できる ふや職人の!

勝

山町

自分だけの香りをブレンドする塗香(ずこう)づくり

くり すごさを感じるとともに、 Ш N 化 地 ま町 P 域に を多くの 毎 年開 並法 根 3 付 偟 勝 人に知っ 17 17 山町 存事業を応援する ていて今年 7 いるも 並 てもらおう み委員会や のづくり -で 5 回

の 町 町並み体験クラフト+の魅力を体験



冷たい雨の中、勢いよくスタートをきる参加者たち

って走る人もいてました。雨の中、 や福岡 色を楽り に応えながら蒜山三 ら 10 ーフ(約21キ 体力や経験に合わ 月 は 女子陸上競 開 県 15 今回で しんでい から約220 か H れまし 蒜山 中 まし 36 て、 Ė 技部 口 高原マラソン全 のコー た。 座 沿道からの 作 目 遠くはは のふもとの :のカッ せて3キロ 0 蒜山 ゲストで スを走 が 高原マ 声 を 参 援 被 り 加

の 赤 高原 走り 抜け





真庭市・暮らしフォトコンテスト

応募の詳細・最新情報は公式HPをご覧ください https://i-maniwa.com/coco/photo/

高森市 暮らしフォトコンテスト 日 安



フォトコンテスト」 ているのを見ると、 テレビで広島の路面電車

小人運賃を自分で料金箱に入れるける際に乗る電車で、当時の円のます。そして幼い頃、家族で出か車両の独特の鉄の匂いを思い出し 気ない暮らしがテーマです。 のが楽しみだったことも。「暮らし を応募してみませんか。 たの好きな真庭の飾らないひと時 は、 そんな何



りです。 うママ」が餅つきをしている様子 ぬりえは、「まにぞう」と「まにぞ 来ないのですが、素敵な作品ばか が折り込まれていまして、 んの作品全てを掲載することは出 だきありがとうございます。 スト、ぬりえ。 たくさんの川柳や、 「読者の広場」 11月号にも応募用の葉書 いつも送っ のコーナーに届く お手紙、 今回の ていた 皆さ イラ



なぜか電停や